

平林ゼミ

精神障害者と私たち何が違うの？



テーマを決めるに至った理由と方法

<テーマを決めるに至った理由>

地域の方だけでなく、福祉を学ぶ私たち自身の中にもある“精神障害者は怖い”というイメージ。そのようなイメージのために、精神障害者とどのように接したらいいのかわからなかつた。そのため両者の間に溝ができるいると私たちは考えた。また、精神障害者と私たちは、いったい何が違うのだろうという疑問が生じた。

<方法>

私たちが実際に当事者と関わり、その体験を通して当事者の気持ちを理解するとともに、「こうしてほしい！」という声を伺った。加えて、日頃から当事者と関わっている支援者にも関わり方や接し方についてお話を伺った。

精神障害とは？

何らかの脳の器質的変化あるいは機能的障害が起こり、様々な精神症状、身体症状、行動の変化がみられる状態のこと。脳の病気であり、誰でもなる可能性がある。症状の変化に患者さん自身でも気づかないことがあり、傍から見ただけではわかりにくいため、状態について周囲の理解を得るのが難しいといった課題がある。主な精神障害としては、統合失調症・気分障害などがある。

フィールドワーク先の概要

地域活動支援センター・相談支援事業所さんぽみち

障害のある方が地域で安心して暮らしていくためのお手伝いをしているところ。

日常生活、病気、就労など困っている人に対し、相談を受け付けている。

退院を希望されている患者が安心して地域で生活できるよう支援する、地域移行支援事業も行っている。



就労支援センターSORA

障害があっても働きたい就労したいという意欲のある方を支援サポートする施設。

生産活動や作業、行事、座学などを通じて就労に必要な自身や体力をつけ、知識・能力の向上を目指す。

就労を希望する方には、現場で役に立コミュニケーション力や、ビジネスマナーなどを習得できる就労移行支援も行っている。

ひめかれん運動会

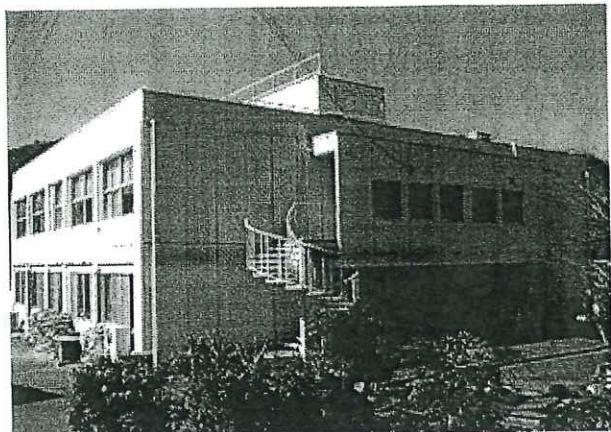
姫路市精神保健福祉連合会が家族の交流を目的として開催している。参加者は、関西福祉大学、神戸医療福祉大学のボランティアや地域の住民も参加しており、250名以上の参加者がある。

多機能型事業所ユートピア

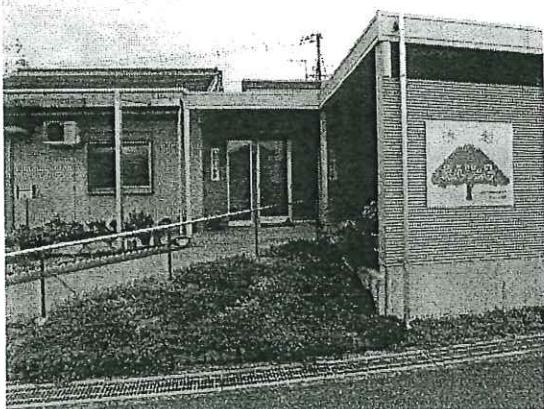
日頃の作業活動の中でのスキルUPはもとより、様々な講座を体験しながら、自分に合った仕事選びを支援するため、自立支援事業、就労継続B型事業、就労移行支援事業を行っている。

地域生活支援センターパレット

市町村委託相談支援事業、特定相談支援事業、障害児相談支援事業、一般相談支援事業所、東備地域自立支援協議会 事務局などを備えており、生活全般の相談や関係機関との調節など様々なサービスを提供している。



地域活動支援センターえんじえる



就労継続支援B型グリーン

グリーンでは、社会に必要な知識及び能力の向上のために、作業訓練、生活訓練の機会を提供して、就労や自立を目指している。また、地域に密着した就労体験型のえんじえるカフェを運営している。
えんじえるでは、当事者に居場所と農作業などの日中活動サービスを提供し、回復と自立につなげている。

就労継続支援 B 型事業	就労移行支援事業
障害者総合支援法で定められている就労継続支援を行う事業所で一般の企業などの団体に就職することが難しい障害者の方々が働く仕事の場です。B型では、雇用ではなく、その作業に応じた工賃が支払われます。それにより、個々人にあったペースで、仕事を続けることができます。	就労を希望する、65歳未満の障害のある方に対して、就労に必要な知識や能力の向上のために必要な訓練、就労に関する相談や、支援を行います。それにより、本人の適正にあつた職場への就労と定着を目指しています。

〈出典〉

WAMnET <https://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/>

NPO 法人えんじえる会 <https://enjeelkai28.jimdo.com/> NPO 法人東備 <https://www.npo-toubi.jp/>

NPO 法人姫路市精神保健福祉連合会 <http://www.himekaren.com/index.html>

医療法人千水会 <http://www.sensuikai.or.jp/>

こころの耳 <http://kokoro.mhlw.go.jp/>

まとめ

- 精神障害者の方と私たちと違いはほとんど無い
腹が立てば怒る、体調が悪ければ元気が出ない、嬉しいことがあれば笑顔になる。
これはどのような人であろうと変わらないと感じた。
- 精神障害は誰もがなり得る病気
皆さんにも、些細なキッカケでなり得る病気。
「まだ大丈夫、自分は大丈夫と思っている人、
無理をせず誰かに相談してください。」(当事者の声)
- 精神障害者の方も自分達と同じで、悩み、考える人、障害は個性である
精神障害者の方も人の言葉に傷ついたり、喜んだり、将来に不安を感じたりする。そのような面では私たちと全く変わらないと気づくことができた。

展望(今後の課題)

多くの人に精神障害者の正しい知識や現状を知ってもらう。そのためには、ボランティアの参加を呼び掛けて関わりを持つことや、ネットやテレビニュースの偏った情報に惑わされないことが大切である。したがって、精神障害は誰でもがなり得る病気であることを、皆が考えるきっかけ作りが必要である。

今回お世話になった方々に、深く御礼申し上げます。

メンバー

伊佐野歩 稲見ちはる 伊藤舞 井上慶祐 城戸光樹
太中雪峰 菊地裕人 小林龍司 谷口諒輔 吉田拓海 坂東将伍